

就任にあたって



消防庁長官 池田 達雄

去る7月5日付けで消防庁長官に就任しました。極めて重責ですが、国民の生命、身体及び財産を守る、我が国の消防行政の推進に全力を尽くしてまいりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

私自身、最近の危機管理業務とのつながりで申し上げますと、令和2年の内閣官房コロナ対策室発足当初から、基本的対処方針を作成する責任者を務めました。記憶に強く残っておりますのは、緊急事態宣言の折、未知のウイルスに感染するリスクがあり、また防護服やサージカルマスク等の資材が不足する中、救急対応等に消防が献身的にご活躍いただいたことです。消防職員の皆さんの士気の高さに接し、非常に感銘を受けました。

さて、本年元日に発災した令和6年能登半島地震において、多くの尊い人命が失われ、住民の方々に甚大な被害が生じました。一日も早く住民の日常が戻り、地域の復旧・復興が進むことを心からお祈り申し上げます。また、発災直後から、困難な環境下で昼夜を分かたず、人命救助等にご尽力いただいた地元消防職員、消防団員、県内外の応援隊、緊急消防援助隊をはじめ、全ての消防関係者に改めて敬意と感謝の意を表します。

長官就任後、被災地域の視察を行い、現地の皆様から当時のご苦労などを伺ってまいりました。能登半島地震については、政府レベルでの検証作業が進む一方、消防庁においても輪島市大規模火災等の検証作業を行いました。今後、能登半島地震の教訓等も踏まえて、緊急消防援助隊や常備消防の更なる充実強化、消防団を中核とした地域防災力の底上げなど、消防防災対策の強化に一層、注力してまいります。

申し上げるまでもなく、地震災害のほかにも、近年は、線状降水帯の発生による大雨被害、相次ぐ台風襲来、熱中症やコロナによる救急搬送事案の急増など、災害等が激甚化、複雑化、多様化しております。

我が国の消防は、関係者のたゆまぬ努力の積み重ねにより、国民の安心・安全の確保に大きな役割を果たしてまいりました。このことは、現場の消防職員、消防団員をはじめ多くの方々の消防に対する熱意と、幾多の災害におけるご活躍のうえに成り立っております。

今後の消防防災対策の強化にあたっては、これまでの経験・知見を生かし、「平時からの備え」を万全に行っていくことが何より重要です。能登半島地震等を踏まえ、大きく三つの点に触れておきたいと思います。

第一に、能登半島地震等これまでの災害を踏まえ、対応方針をマニュアル化し、現場にしっかり浸透させていく、その上で、日頃から、関係機関と連携し、訓練を積み重ねておくことです。

次に、消防力を「ヒト」「モノ」両面で底上げしていくことです。緊急消防援助隊、常備消防の充実はもとより、女性、若者をはじめとした消防団等の加入促進が不可欠です。また、能登半島地震の教訓を踏まえ、小型・軽量の車両や資機材の整備を進め、消防の機動力を強化することも重要です。

また、消防においても、社会経済情勢の変化に的確に対応していくことが必要です。特に、来年度に全国展開を推進するマイナ救急をはじめ、消防業務各般におけるDXの推進と、そのための人材育成が重要です。

こうした諸課題を念頭に、令和7年度概算要求を行うなど、迅速かつ的確に消防庁としても取組を進めてまいります。

本格的な人口減少社会を迎え、社会経済の各分野でスリム化が進んでいくと思われませんが、災害への備えである消防力は充実強化が必要です。社会経済の変化や科学技術の進展等に対応した改革に果敢に取り組みつつ、現場に立たれている方々の声を常に大切にしながら、国民の生命と財産を守るという使命を果たすべく、一意専心取り組んでまいります。